

## 『宮沢賢治と学ぶ宇宙と地球の科学 2』 &lt;2021年9月「防災」&gt;

柴山 元彦//編著(創元社 2021.07)

場所:ティーンズ【Y/450/シバ】



9月1日は「防災の日」です。1923年(大正12年)に日本を襲った巨大地震「関東大震災」が発生した日が9月1日だからです。さて地震といえば...実は、『やまなし』や『ゼロ弾きのゴーシュ』の著者・宮沢賢治は地学教師でもありました。彼の作品から、地学の知識や表現をたくさんみつけることができます。この本では、宮沢賢治の文学(『クンねずみ』『グスコブドリの伝記』など)を切り口にして地震と火山のしくみなどが学べます。宮沢賢治のおはなしを楽しみながら地震について学んでみませんか?

## 『あしたの幸福』 &lt;2021年4月&gt;

いとう みく//著(理論社 2021.02)

場所:ティーンズ【Y/913/イト】



あたりまえが消えるなんて思いもしなかった...。父を亡くした中学生の雨音は、自分の居場所を守るため、顔も知らない「欠陥人間」と言われた母との同居を決意する。大切な家族や友人だからこそ、気を使って聞けないことや話せないことってありませんか?そして、後になってそのことを後悔することも。こんな世の中だからこそ、人との心の距離や、あたりまえにある幸せについて考えさせられる作品です。

## 『博物館の少女』 &lt;2022年3月「新生活」&gt;

富安 陽子//著(偕成社 2021.12)

場所:ティーンズ【Y/913/トミ】



3月。4月の新生活に向けて準備を始める頃です。「新生活」といえば、『博物館の少女』は慣れない場所での新生活がはじまり、不安な毎日をおくりながらも自分の居場所を求めて奮闘する少女イカルが主人公の物語です。時代は明治。大阪で古道具屋を営んでいた両親と死別し遠い親戚を頼って東京に1人でやってきた13才のイカルは、上野の博物館から盗まれた収蔵品の行方を追ううちにミステリアスな事件に巻き込まれていきます。さて、イカルの新生活やいかに!

## 《発行》

関市立図書館 指定管理者 学校法人岐阜済美学院

TEL: 0575-24-2529/FAX: 0575-23-7780

E-mail: lib@city.seki.gifu.j

## 司書のおすすめ 《2021年版:こどもの本》

## SEKI CITY LIBRARY

## BOOK REVIEW

※2021年4月~2022年3月の図書館だよりで紹介した本



## 『おもち』 &lt;2022年1月「年始」&gt;

彦坂 有紀、もりと いずみ//さく(福音館書店 2021.11)

場所:絵本【SE/オモ】

おもちが焼けて、ふくらんでいく様子が、やさしい木版画で描かれていて、とても美味しそう!思わず手がのびてしまいそうになります。この季節になると食べたくなる人も多いと思いますが、この本を読むと、すぐにも食べたくなってしまいたくなるかも...



## 『海のアトリエ』 &lt;2021年8月「夏」&gt;

堀川 理万子//著(偕成社 2021.05)

場所:絵本【E/ウミ】

海を見ると夏の思い出がよみがえってくる人もいると思います。この絵本の多くのページには、海のおいがするやさしい絵が描かれています。本の中に出てくるおばあさんは、子どものころ家に閉じこもっていましたが、「海のアトリエ」で絵描きさんとお会いし、心解き放されていきます。みなさんも、海のアトリエで素敵な時間を過ごしてみませんか。



『野ばらの村の雪まつり』 <2022年2月「冬」>  
シル バークレム//作・絵 (出版ワークス 2021.12)

場所：絵本【E/ノバ】



初雪が降ってくると、誰もがわくわくしますね。野ばらの村でも、雪が降り始めたら、子ねずみたちはこうふんして眠れません。でも、もっと雪を心待ちにしていたのは、大人のねずみたちです。おいしい料理をいっぱい作ったり、アイスホールをつくったり…。野ばら村の雪まつりを、そっとのぞいてみませんか。

『プロから学ぶ修理ずかん』(全3巻) <2021年6月「お父さん」>  
(フレーベル館 2020.12) 場所：児童書【K/590/フレ】



身の回りの物が壊れてしまったとき、どうしていますか。捨ててしまいますか？お気に入りの傘や、おもちゃ、自転車、家具など修理すれば、まだまだ使えるかもしれません。物の構造やしくみから、プロがわかりやすく解説してくれています。家具などの大きいものや、難しい修理はお父さんに手伝ってもらってチャレンジしてみませんか？

『今日からぼくがクッキング』 <2021年11月「秋」>  
瀧 知子//写真と文 (岐阜新聞社 2021.03)

場所：児童書【K/596/タキ】



食欲の秋、簡単においしい料理を作ってみませんか？小学生の気持ちになって作られたこの本、まるでマンガのように作り方が書いてあり、写真もいっぱい！初めてでもわかりやすいレシピ本です。みじん切りやむずかしいことは無し、だけど味は本格的。

定番メニューからお祝いメニュー、おやつも自分で作れちゃう。

「世界一！？親切かもしれないレシピ本」で料理にチャレンジしてみましよう！

『気持ちを届けよう！世界にひとつの手作り手紙 3』  
<2021年5月「お母さん」>

寺西 恵里子//作 (汐文社 2021.02) 場所：児童書【K/754/テラ】



季節の行事ごとに手作りのお手紙で大切な人に気持ちを届けましょう。

かわいいはがきや、お野菜のスタンプ、ポップアップカードなど、たくさんのお見本や型紙で、世界にひとつだけのお手紙が作れます。5月は母の日にぴったりなカーネーションのポップアップカードで、「ありがとう」を伝えてみませんか？

『コツがつかめる！体育ずかん』 <2021年7月「オリンピック」>

遠山 健太//監修 (ほるぷ出版 2020.11) 場所：児童書【K/780/ホル】

運動って苦手！！がんばって走っても早く走れない。なわとびは好きだけど、とびばこはイヤだな。なんで体育の授業ってあるんだろう。



知ってる？運動能力を身につけるには運動のきほんとなる動き「きほん動作」をたくさん経験するといいんだって。体育の授業はこの「きほん動作」を経験するためにいろんな運動をするんだね。いろんな動作をたくさん経験することが得意なスポーツにつながるから、もしかしたら将来はオリンピック選手にも♪

『かずさんの手』 <2021年10月「祖父母」>



佐和 みずえ//作 (小峰書店 2021.07) 場所：児童書【K/913/サワ】

かずさんは、みかのひいおばあちゃん。96歳です。やさしくて働き者のかずさん、いつもみかと遊んでくれます。みかはおばあちゃんの、しわしわだけとあたたかい手が大好き。しかし、その手には悲しい戦争の思い出があったのです。

看護師として戦時中働き、多くの人の手を握り看取っていたかずさん。その思い出をみかに話して聞かせます。戦争を体験した人がどんどん少なくなっていますが、語り継がれていく大切さを感じるおはなしです。

『ごいっしょさん』 <2021年4月>



松本 聰美//作 (国土社 2020.11) 場所：児童書【K/913/マツ】

“ごいっしょさん”という妖怪をみなさんはご存じですか？表紙を見ると、どうやら座敷童に似た妖怪のようです。そして、この妖怪は、秘密の呪文を唱えようと、そっと近くに来てくれて一歩を踏み出す勇気をくれるらしいのです。しかし、こんな妖怪、聞いたことありませんよね。それもそのはず、実は……。クラスの中で困っている子、悩んでいる子に、勇気のリレーを与えてくれた“ごいっしょさん”。目に見えなくても信じる気持ちがあれば、ひょっとしたら、大人のわたしたちの隣にも来てくれるのかもしれません。

『ウィンストンとクリスマスのおとしもの』 <2021年12月「年末」>

アレックス T スミス//さく (潮出版社 2021.11)



場所：児童書【K/933/スミ】

クリスマス・イヴにネズミのウィンストンはサンタさん宛ての手紙を拾います。なんとサンタさんの住所は“北極”。サンタさんに手紙を届けるため、ウィンストンの大冒険が始まります。数々の困難を乗り越え、無事に手紙を届けることができるでしょうか。小さなウィンストンの大きな勇気とやさしさに拍手を贈りたくくなります。

分厚い本ですが、一日一章ずつ、物語とクリスマスの小物やお菓子の作り方が載っています。どんどんクリスマスの楽しみが大きくなっていきます。